



2002年 6月15日発行（隔月刊）

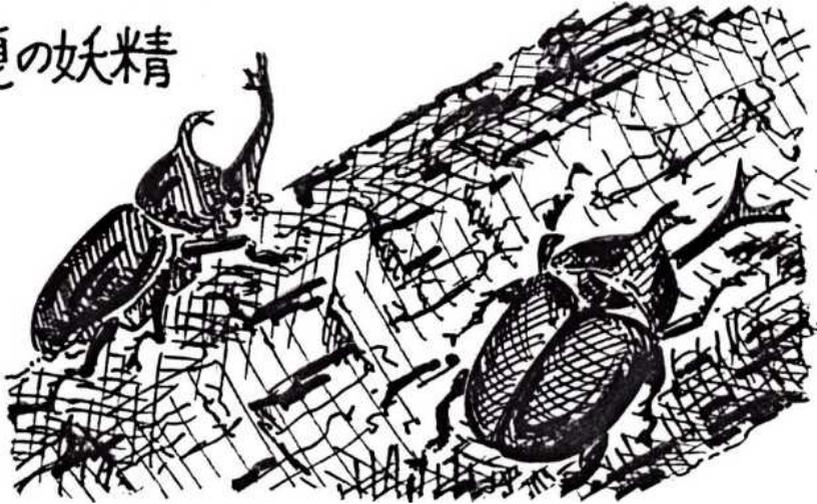


う 羽 化 か

2002年6月
第 32 号

横 浜 漢 点 字 羽 化 の 会
〒231-0851 横浜市中区山元町2-105 Tel 045-641-1290
発行責任者 代 表 岡 田 健 嗣
編集責任者 宇田川 幸 子

夏の妖精



目 次

EIBRK による漢点字変換のための入力マニュアル (5)	i
東洋医学について (4) (小池上 惇)	1
連載「点字から識字までの距離」(29) (山内 薫)	3
点字の読みづらさと漢点字の触読について (16) (岡田 健嗣)	7
漢文のページ	13
ご報告とご案内	15
イラスト版「漢点字ってどんな字？」(31)	17
イラスト版「漢点字ってどんな字？」訂正版	別紙添付

東洋医学について (四)

小池上 惇

四 経絡と経穴

(一) 経絡とその流注



ア 経絡

経絡は、経脈と絡脈からなっています。経脈は経絡の本管に当たり、絡脈は経脈と経脈とをつないでいる脈です。

経絡は全身に分布し、気血を巡らせています。経絡は、体表を走るだけでなく内部においては臓腑と結合し、臓腑経絡系を構成しています。したがって、内臓の病変は経絡上に現れ、経絡への刺激は臓腑の病変を治したり、内臓の働きを調節することができます。

イ 正経と奇形

経脈には十二の正経と奇経八脈がありますが、

臨床的には正経の十二経脈と奇経のうちの督脈と任脈を加えた十四経が用いられています。

正経とは、六臓六腑に所属する経脈で、経脈の主体をなしています。各経脈はそれぞれが属する臓腑名、始まりまたは終わる場所、陰陽配当などにより名付けられています。

手の太陰肺経、手の陽明大腸経、足の陽明胃経、足の太陰脾経、手の少陰心経、手の太陽小腸経、足の太陽膀胱経、足の少陰腎経、手の厥陰心包経、手の少陽三焦経、足の少陽胆経、足の厥陰肝経。

以上の十二経ですが、名前を聞いただけでうんざりしてしまいますね。普通は省略して、肺経とか膀胱経などと呼ぶことも多いのですが、ここに書いたものが正式な名称です。

経絡内を気血が流れる方向及び経絡が並ぶ順序を流注といい、経絡の流注には次の原則があります。

① 手の太陰肺経から始まり、十二経を巡って足の厥陰肝経を経て手の太陰肺経に戻る。

② 手の三陰経は胸から手へ、手の三陽経は手から顔へ向かう。



③ 足の三陰経は足から胸腹部へ、足の三陽経は顔から足へ向かう。

ウ 奇経について

奇経には、督脈、任脈、衝脈、帶脈、陰蹻脈、陽蹻脈、陰維脈、陽維脈があり、そのうち任脈は胸腹部の真ん中、督脈は背腰部の真ん中をそれぞれ上に向かつて走っています。



(二) 経穴



ア 経穴の意義

経穴は経絡上にある反応の現れやすい点で、ツボがあるいは穴などと呼ばれています。古代の中国人が病の時圧して特に痛いところや気持ちの良いところを選び、そこを治療に用いたところから経穴が生まれたものと考えられます。この経穴を繋いだものが経絡で、後に臟腑との関係から、臟腑経絡系が形作られたものと思われれます。また、経穴には次のような作用があります。

- ① 臟腑・経絡の病変を表す：診断点
- ② 臟腑経絡の病変を治す：治療点
- ③ 経絡の機能の調節：調整点

イ 要穴

特定の作用を持った重要穴を要穴といい、これに、原穴、五行穴、兪穴、募穴、郄穴、絡穴、四総穴などがあります。ここでは、原穴、四総穴について記述します。

① 原穴

その経絡を代表する経穴で、経絡の変動の際、最も反応の現れやすい経穴と考えられ、主な経絡の原穴としては、次のものがあります。

- 肝経…太衝（足の第一指と第二指の付け根の間）
- 心経…神門（手関節前面の小指側）
- 脾経…太白（足の第一指の付け根の内側）
- 肺経…太淵（橈骨動脈の触れるところ）
- 腎経…太谿（内顆とアキレス腱との間）

② 四総穴

四総穴とは、身体を四つのエリアに分け、それぞれの部の病の治療に用いる経穴を定めたもので、次のものがあります。

- a 顔と目の病には合谷を用います。合谷は、手の第一指と第二指の付け根の間にあります。
- b 首と頭の病には列缺を用います。列缺は橈

骨動脈が触れるところから約3センチ上にあります。

c 腰と背中中の病は委中を用います。委中は膝の裏側の中央にあります。

d 腹部の病には、足の三里を用います。三里は脛骨粗面の下縁の高さで外方二センチのところにあります。

③ その他

経穴は、全身に三百六十五もあり、それを全部紹介することはできませんので、最後に肩こりに用いられる経穴を紹介したいと思います。

- a 肩井…肩上部のほぼ中央
- b 天髎…肩井の後方約一センチ
- c 天宗…肩甲骨棘下部のほぼ中央
- d 天柱…僧帽筋の外縁で後頭部の下端
- e 膏肓…肩甲骨内縁の上部

今回はこれで終わりますが、次回は経絡の中を流れる気血について書きたいと思います。



点字から識字までの距離(二九)

山内 薫 (墨田区立緑図書館)

⌘ 言葉と身体 (二) ⌘

すでに、ご紹介した『子どもはことばをからだで覚えるーメロディから意味の世界へ』(中公新書 二〇〇一)の著者、正高信男は京都大学霊長類研究所などで「ヒト乳児と霊長類の音声コミュニケーションの比較行動学的研究を通じて、ことばの起源の問題を解明しようとしている」と紹介されており、これまでにその方面で『ことばの誕生ー行動学からみた言語起源論』(紀伊国屋書店 一九九一)、『0歳児がことばを獲得するときー行動学からのアプローチ』(中公新書 一九九三)という著書がある。そこで今回はこの三冊を参考にして、子どもがことばを獲得していく過程をみていきたいと思う。

胎児は受精後四ヶ月を過ぎると聴覚が発達す

る。

だが、羊水に包まれてただよっている出生前の子どもが聞く音というのは、母胎の出す心音や血流音そして母親の声など、たいへん限られたものである。



従って胎教にモーツアルトを聴かせるといっても、それほど効果のあるものではないらしい。

しかし、胎児は母胎の音や母親の声を記憶しており、出生直後の新生児でも母親の声と他の女性の声を区別して知覚しているという。また母親が出生前に繰り返し同じ童話を音読してあげると、やはり出生後なじみのない童話の音読とを峻別する。

この音読が胎児に影響を及ぼすのは、出産の五週間前になってからで、受精後三十五週間の頃に、外界の刺激を認識する聴覚感受性が子どもに完備される。とは言ってももちろん母親の話したお話を理解しているというわけではなく、先の童話をハミングだけで（メロディとしての高低と強弱の調子だけ）唄ってもらっても、音読をしても新生児の反応にほとんど差が生じない。つまり、

赤ちゃんが外界とコミュニケーションをはかろうとする際、周囲から入力される情報は最初、メロディとしてやってくるということになる。

このメロディに関して、赤ちゃんには協和音と不協和音とを峻別し、協和音の方を好むという一つの能力が生まれつき備わっている。この協和音を好むという能力は、私たちの言葉が倍音構造を持ち、発声そのものが複数の音程の協和音の連鎖であることと係わっている。ヒトの新生児が持つこのような協和音への生得的な好みは言語的な音声への選好と直結しており、出生間もない赤ちゃんが音の洪水の中から自己の生存に不可欠な音源に、確実に注意を払うようなメカニズムが埋め込まれているのだ。

さらに、私たちが赤ちゃんをあやしたり、話しかける時のことを思いうかべてもらいたい。その発話における特徴は普通の発話に比べて、音の高さが高くなり、テンポがゆっくりになることである。決して意識している訳ではないのに高い声になり、ゆっくり話しかけるといふ、このこと自体も遺伝的に組み込まれた赤ちゃんへの反応ではないだろうか。「育児語」と呼ばれるこの現象はおよそ地球上のあらゆる地域で見られるという。

赤ちゃんにとって、連続する音の均質性を把握するためには、刺激の周波数の変調が大きい方が都合がよく、高音になればなるほど音程間の周波数の開きは大きくなる。

また、生まれて間もない子どもにとって、連続して流れる音を分節処理する材料としては歌の方が、ただの会話よりはるかに適しているという。

赤ちゃんはまず始めにことばを一種の音楽として知覚し、発話のメロディ的な側面に注目し、その特徴を手掛かりに記憶し、次いで音素の組み合わせとしての語彙の記憶へと移行するらしい。その際、音素をのせてきたメロディーの側面を無視することによって、独立したことばの基礎となる単語を自ら産出する素地が整う。

赤ちゃんは自分で発した音の特性と引き続いて反応したお母さんの音の特性が同じであるか異なるかということを生後三ヶ月の段階ではよく分からないが、四ヶ月齢に成長すると認識しはじめるという。このちようど三ヶ月から四ヶ月の頃になると赤ちゃんはことばの原型になるような母音様の音を発声しはじめるが、この頃赤ちゃんの喉には劇的な変化が起こるのである。



新生児の喉の形態は未だヒトとは違ってチンパンジーに似た形態をしている。ヒトでは咽頭の空間が共鳴箱の役割をして音を増幅させているが新生児では軟口蓋が下顎の筋肉よりも下部にまで垂れ下がっているため、空気を口から外部へ送り出すことができない。

また生まれたばかりの赤ちゃんでは舌が口腔内を占領しているために、口を使って呼吸するということをほとんどしない。それが三ヶ月を過ぎる頃に下顎や喉を包んでいる骨格が短期間に成長して気管の先端部が下降し、咽頭が拡張する。こうした後でやっと赤ちゃんは口を使って共鳴した音を出せるようになるのである。これが第一回目の声変わりである。

こうして六ヶ月をすぎると喃語が出現する。それ以前でも赤ちゃんは泣くというところで声を発しているし、生後六〜八週間経つと「アー」とか「クー」というクーイングと呼ばれる音声を発するようになる。

しかし、喃語はクーイングと違って、音節が複数あり、各音節が子音プラス母音の構造を持っている。喃語のそれぞれの音節が発声されるテンポは、笑いのサイクルの長さときわめて一致すると

いう。

赤ちゃんが声をたてて笑う場合に足を何度も繰り返して蹴りながら笑う様子を目にしたことがあるだろう。三ヶ月齢の前から笑いは足と同期するようになり、やがて五ヶ月



を過ぎると手との同期が始まる。手との同期が始まると足との同期は急速に減少し、同時に笑いの反復時間がどんどん短くなっていく。

子どもが喃語を話し始める時期と、笑いと手のスムーズな連係が成立する時期がこうして重なる。つまり、より細かい周期で呼気の断続的反復ができるようになるのだ。

笑いの呼気の長さや喃語の一音節の平均的な長さがほぼ等しく、短くなっていく。そして、大人並みの子音が発せられるようになる。このことは運動との同期は急に消失してしまう。このことは音声言語の発声の基礎となるパターンを習得するために手足の運動が道具的に用いられたということになる。

ダやバやパという喃語を産出できるようになるのは八ヶ月のころで、喃語のパターンは特定

の事物や事象、赤ちゃんの欲求と結びつくようになり、発声が表象機能を有するようになることが伺えるようになる。

ただし、「マ・マ」や「ダダ」や「ババ」など特徴的な喃語がそれぞれ意味を持っているというわけではなく、個別的で統一性がない。ところが音をメロディによって分類してみると一貫した傾向が見られる。

語尾が上昇する発声は注意喚起と欲求、語尾が下降する発声では抵抗と譲渡、平板な調子の発声は呼びかけと叙述というようにカテゴリー分けできるのである。このようにして音のパターンが個性を越えた公共性を持つにいたるのである。

従来「ヒトは白紙（タブラ・ラーサ）の状態である」とか、「この世に生を受ける」（ジョン・ロック）とか、「ヒトの赤ちゃんは本来よりも生理的早産の状態である」とか、「この世に生まれてきている」（『人間はどこまで動物か』アドルフ・ポルトマン）など、赤ちゃんは非常に未熟な状態で生まれ落ち「心理未分化の有機体」であり、受け身的存在であると見なされてきた。

しかし著者はヒトの赤ちゃんは誕生した直後に乳首を吸い始める段階から、他者との相互交渉を

開始するように遺伝的に組み込まれており、驚くべき積極性を持って、外界に関わりを持つようにできていると主張している。

また認知そのものも「運動」する身体によって担われて初めて成立するものであるのではないか、ヒトの言語の出現は遺伝的生得性に裏付けられていると述べている。

言語の獲得についてはまだまだ膨大な未知の部分が残されているが、一般的認知能力と言語能力は発達のためのメカニズムを共有しており、かつ身体性をおびたものであることも明らかになりつつあるようだ。



002. 6. 6 お話会・あめあめぼったん

点字の読みづらさと

漢点字の触読について(十六)

横浜漢点字羽化の会 代表 岡田 健嗣

七 点字の漢字には二つの体系がある？

本稿では、しばしば〈六点漢字〉と呼ばれる点字に言及して来ました。しかしながらこの点字を、漢字の体系を持った点字として、取り上げては来ませんでした。

しかし、二つの漢字の点字の存在として、〈六点漢字〉も〈漢点字〉と並んで漢字の体系を持った点字である、という、いやむしろその逆に〈漢点字〉が〈六点漢字〉と並んで…、という扱いで一般に流布されているのが現状です。

もしそうであるならば、両者の交通を図って、取るところは取り、捨てるところは捨てるという、よりよいものを作ろうという歩み寄りと努力がなされるはずだ。

しかし、このような流布に相反して、この二者を正面において論じられることはありませんでした。

本会の活動は言うまでもなく、川上泰一先生の創案された〈漢点字〉で書かれた資料を製作して、希望する視覚障害者に提供することにあります。

その理由はこれまで述べて参りましたように、本会が、この〈漢点字〉が、〈点字の漢字〉として、最も完成した構造を持っていると考えているからです。川上先生は、〈日本語点字〉が、日本語を表記する触読文字でありながら、〈漢字〉という最も重要な文字を持たないことに留意されて、これに漢字の体系を導入しようとされました。



そのとき基本に置かれたのが、この〈漢字の構造〉だったのです。この構造を〈点字〉に如何に活かすか、しかも如何に触読し易いものにするかというところに、先生は心を砕いておられました。現在私たちが使用しているこの〈漢点字〉は、このようなコンセプトのもとに完成したのでした。

今日においても未だなお、〈触読のための漢字の体系〉については、公的な場所で取り上げられることはありません。



そこで今回は、単に〈漢点字〉のみを取り上げるのではなく、現在の視覚障害者の言語生活に、〈漢字〉がどのような位置を占めているかを検証して、〈漢字の点字〉の必要性の是非に接近してみたいと思います。

隗わいより始めよ！先ずは川上先生の鑿ひそみに做つて、〈点字の漢字〉のあり方について、〈六点漢字〉を交えながら考えてみることにします。

川上先生の〈漢点字〉創作のコンセプト

川上先生の〈漢点字〉創案に際してのお考えには、本稿でもこれまで幾度か触れて来ましたが、現在本誌に連載中の『漢点字ってどんな字』に、その一部を紹介しております。ここでもう一度基本的なところをおさらいしてみましよう。

① 漢字の構造、 〈六書〉

川上先生は、漢字をリ組立文字リという理解から始められました。

漢字の構造は、基本的な文字がパーツとなつて、それをブロックのように組み合わせで新たな文字に発展したものです。

この構造を整理・分類したのが、後漢の学者許慎きよしんでした。彼の著した『説文解字』（十五卷、紀元二世紀）には、その構成や使用法から、漢字を六つのグループに分けて解説されています。

これが〈六書〉です。やや煩瑣に過ぎる嫌いはありますが、この〈六書〉こそが川上先生の〈漢点字〉創案の基礎にありますので、簡単に紹介します。

イ 象形文字…事物の形を象つた文字です。元

は絵に近いものでした。これは文字の最も古い形を残したもので、漢字ばかりでなく、古代メソポタミアやエジプトの文字に

も見られるものです。漢字では「人、山、川、木、日、月、馬、牛、鳥、魚」など、日常的で、具体的なものを表す文字です。これは部首となつて、〈会意文字〉や〈形声文字〉のパーツになります。部首になる字としては、最も多くを占めています。

ロ 指事文字…物事を指し示す符号が元になつた文字です。「一、二、三」や「上、下」

などがあります。これも部首〈会意文字〉や〈形声文字〉のパーツとなります。

ハ 会意文字…二つあるいは複数の文字の意味を合わせてできた文字です。「有、鳴、

看、加、役、兵」などがあります。具体的な事物よりも、むしろ政治や宗教など、人間や社会にかかわる概念を表現しています。

この〈会意文字〉も、次〈形声文字〉同様、部首の組み合わせでできたものが多くあります。

ニ 形声文字…前に挙げた〈象形文字・指事文字〉と〈会意文字〉の一部の文字を〈部

首〕として、パーツにして構成したものです。部首にはそれぞれ働きがあつて、その文字の意味と音を表すようになっていきます。前者が「意味符号」、後者「音符号」と呼ばれます。「他、住、俗」は人々が偏となつて人にかかわる文字であることを表しています。これが「意味符号」です。そして右側のつくりが「音符号」です。この他に「池、注、浴」は人さんずいりによつて水にかかわる文字、「桜、松、杉」は人木りによつて木の名という風に、文字の形にその音と意味が含まれているのです。

この文字は、時代が進むにつれて数を増して行きました。人間社会の複雑化が進むにつれて、抽象的な概念や、社会の仕組みを表す文字が必要になつて来たのです。またこの「形声文字」の造字法では、無際限に文字が作られる結果となつて、現在ではその整理が大きな問題となつています。

この「形声文字」が、漢字の八割を占めています。ので、漢字と言えはこの形声文字を指すほどです。部首が多く含まれた文字は、画数も多くなつて、一見たいへん複雑に、また難しい字に見えて

来ます。

しかし、構造から見ますと、「象形・指示・会意」の三つのグループの文字をしつかり理解すれば、恐れるに足りません。

基本的にはこの三つのグループに帰つて来ますので、せいぜい数百字を覚えることで、数千字の理解の入り口に立つことになりま



ホ 転注文字…これは現在いうところのり当て

字りです。「豆」の字がそれですが、元は「タカツキ」、すなわち食べ物を盛つて神に供える脚の付いた器のことでした。ところがりず、とうりという音が、りマメリの音に通ずることから、この文字をその意味に用いるようになりました。

へ 仮借文字…文字どおり本来その意味ではな

いが、借りて来て用いた文字という意味です。「予」の文字をりワレりの意で用いるのが、この「仮借」に当たります。「予」にはもともと自称の意味はなく、勝手にそ

のように用いたということです。

以上が〈六書〉です。

ご覧のようにこの〈六書〉は、イ・ロ、ハ・ニ、ホ・へと、三つのグループに分けることができます。

イ・ロのグループは、それぞれが最小単位の文字として独立したものです。

ハ・ニは、イ・ロの文字とハの一部の文字をパーツとしてブロックのようにして組み合わせ、一つの文字を形成した文字です。

ホ・へは、文字の使用法として特別なものを分けたもので、前四つとは異なった分類と考えられます。

②漢字の特徴、〈形・音・義〉

このように漢字をその構造から整理して参りますと、もう一つの大きな特徴に行き当たります。

最小単位の文字である〈象形文字・指事文字〉を、パーツである〈部首〉として組み合わせ、〈会意文字・形声文字〉が組み立てられます。

それは、何の法則もなく組み立てられるのではなく、〈会意文字〉では複数の文字の意味が、

〈形声文字〉では〈音符号〉と〈意味符号〉として、元の文字が持つていた音や意味を、その文字に持ち込むのです。

従って、元の文字を部首として受け継いだ〈会意文字・形声文字〉には、元の文字の持つ性格が反映されます。これが漢字のもう一つの特徴である〈形・音・義〉です。

〈形〉とは、元の文字が部首の形として、その文字の中に留められていることです。文字の形が、文字の関連性を表しているのです。

〈音〉とは、元の文字の音を部首の中に留めて、その文字の音に反映していることです。文字の読みにも関連性があるということです。

〈義〉とは、元の文字の意味を部首の中に留めて、その文字に反映していることです。文字の意味の関連性を表しているのです。

このように「漢字」は、「形」と「音」と「義」によって、互いに関連づけられているのです。私たちが漢字を使用し考えるとき、この「形・音・義」という要素を、必ずどこかに意識しているのです。

日本語において漢字は、言うまでもなく中国からやって来て、それを表記する文字になったものです。言い換えれば、漢字は元来日本語を表記する文字ではなく、中国語を表記する文字でした。

中国語を表記する文字であるならば、漢字の中に中国語の特徴が含まれているはずですが。

この中国語の特徴の一つに、単語が単音節であるということがあります。漢字の音も総て一音節です。すなわち、漢字は単音節の単語に対応した文字として、単音節の音を表しているということが言えます。

このことはたいへん大事なことで、これまで漢字を「文字」と呼んで来ましたが、実は他の文字、音標文字であるアルファベットのように音素



を表す文字や、漢字から派生した日本語の音節を表す仮名文字とは、基本的に異なった文字です。国語学者の高島俊男先生は、漢字をこのような性格から、「表語文字」と呼んでおられます。

（『漢字と日本人』文藝春秋社、二〇〇一年）

このように漢字は、日本語の表記に用いられるようになってからも、中国語の特徴である「語」の性格を保持しているばかりか、日本語の表現の中に、この性格とともに大きく根を張ることになったのでした。

（続く）



漢文のページ

『論語』（為政）より

子、曰、道之以政、

齊之以刑、民免而

無恥。道之以德、齊

之以禮、有恥且格。



子の曰わく、之を道びくに政を以てし、之を
斉うるに刑を以てすれば、民免れて恥ずること
無し。之を道びくに徳を以てし、之を斉うるに
礼を以てすれば、恥有りて且つ格る。

子Ⅱ男子の美称、また通称。孔子を指す。

格Ⅱ「至る」の意。「正しい」の意にと
り、「格ス」、「格シ」（古訓）の読
みもある。

先生がいわれた、民を導くのに政令法律を以
てし、刑罰で統制していくなら、民は法の網を
すりぬけて恥ずかしいとも思わなくなるが、道
徳を以て導き、礼で統制していくなら、民は恥
を知るようになり、その上、善道に至りすすむ
ものである。

※ 金谷治『論語』（岩波文庫）、諸橋轍次『論語
の講義』（大修館書店）を参照しました。

「報告とご案内」

① EIBRKRW とひふり

既報のように、昨年四月より、一部改正された著作権法が施行されました。

この改正のうち、視覚障害者に関係する箇所は、**「点訳」**という語の範疇を拡大したことにあります。従来の**「点訳」**は、手で紙に点字を打つことを指していました。

このような点訳では、著作権者へことわりをすることなく行うことができました。しかし、近年急速に普及しているコンピュータによる点訳は、従来の**「点訳」**には含まれません。そのため、著作権者の許諾を得る必要がありました。

改正著作権法では、このコンピュータ点訳も従来の点訳と同様に扱われて、著作権者の許諾を得なくともよくなりました。

さらに、コンピュータによる点訳に伴って作製される点字の電子データも、点字の範囲に含まれることにな

りました。これによってこの点字の電子データも、制約なく複製・頒布することができるようになりました。

本会の活動もコンピュータ点訳の範疇に含まれますので、これまでは従来の著作権法に従って参りました。

この度施行された改正法によって、新たなサービスの可能性が開かれたものと考えております。

そこで本会でも、新たな分野の開拓を試みることにしました。

EIBRKRW は、本会で開発して漢点字訳に使用しております EIBRKW の姉妹ソフトウェアです。

EIBRKW は、テキスト・ファイルを漢点字データ・ファイルに変換したり、編集したりして、点字プリンタに打ち出したり、点字ディスプレイに送出したりするソフトウェアです。



EIBRKRW は、EIBRKW で変換し、編集されて作製された漢点字のデータ・ファイルである EIBR ファイルを、点字ディスプレイ等に送出して読むためのソフトウェアです。この EIBR ファイルは、漢点字のファイルですので、他の点字ファイルと同様に、複製・頒布することができます。

この EIBRKRW は、無料でお分け致します。本誌テ

ープ版をお聞きの皆様には、テープと一緒にご送りする予定です。その他ご希望の方は、お申し出下さい。

また、EIBRKW は、有料でお分けしております。

ただし、編集に欠かせないエディタの機能が、音声に対応できておりません。そのため、市販のエディタWINのマクロを用いてリンクさせております。

視覚障害者の皆様には、当面この方法で作業していただくこととなります。ご了承下さい。

E-MAIL : takeshi-okada@h2.dion.ne.jp

② ライブラリーについて

EIBRKW の完成を受けて、本会では、これまでに製作した漢点字書を、DIBファイルに変換して、電子ライブラリーの構築に着手したいと考えております。

また、本会以外の有志の皆様には、お手持ちの電子データや、公開されている電子データをDIBファイルに変換して、漢点字使用者の共有財産として活用していただければと期待しております。

新聞・雑誌・単行本等、手に入る電子データを、できるだけ多く漢点字のデータとして流通させることが、漢点字の普及に大きな力になるものと考えます。

ご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

③ ホームページについて

かねてから課題でしたホームページも、この七月中のスタートが見えて参りました。ご期待下さい。

URL : <http://users.goo.ne.jp/ukanokai/>

④ 『医療事故対処マニュアル』の漢点字訳が完成します。

今般、医療事故が増加しております。

本書は、私たちが遭遇するかもしれないこのような医療事故やミスに、過去の事例を参考に、如何に対処し得るかを解説したものです。

詳細は次号にてご案内致します。

書名 【医療事故対処マニュアル】

二〇〇〇年四月三〇日 第一版第一刷

編者 藤田 康幸

発行所 株式会社 現代人文社

発売所 株式会社 大学図書



漢点字ってどんな字？ 31

十干 (じっかん) と十二支 (じゅうにし) 〈1〉

おねえさん それでは今日の字
さん に入るわね。

未 来 今まで出てきた漢
ちゃん 点字は、部首では

志 朗 君 そろそろ隣の部首
になる字が出て来
るかな。

お これまでにも旁になる
字があったのよ。

志 対象基本文字だね。

未 漢数字や比較文字のよ
うに、前置符号をもつ
漢点字のことね。

お 今日はその中の、漢数
字をもう一度勉強しま
しよう。

未 え、漢数字はもうやっ
たわよ。

お 数字といっても、歴史
に關係する字なのよ。

お 十干^{じっかん}って覚えていてる？

志・未 甲・乙・丙・丁！

志 ものの順序を表すときに使
うね。

未 だから数字なのね。

お そう、これはね、暦なのよ。

十干だから 十あって、まだ
六つ残っていたのよ。

未 暦の十日分あるのね。

お 十日で一まとまり。十日が

三つで三十日、つまり
一月。そしてこの十日を

（旬）と呼んだのよ。
今でも使うでしょう。

未 上旬、中旬、下旬。 ☆

志 それに陰陽と五行が
あるんだって。 ☆

お 複雑ね。
一つ一つ調べましょう。



十干 (じっかん)



水		金		土		火		木	
癸	壬	辛	庚	己	戊	丁	丙	乙	甲
キ	ジン	シン	コウ	キ	ボ	テイ	ヘイ	オツ	コウ
みずのと (水の弟)	みずのえ (水の兄)	かのと (金の弟)	かのえ (金の兄)	つちのと (土の弟)	つちのえ (土の兄)	ひのと (火の弟)	ひのえ (火の兄)	きのと (木の弟)	きのえ (木の兄)

未 全部漢数字なのね。

志 (辛) だけ数字の仲間じゃない。
数字の印 (三三三) が付いてないよ。

お (辛) は、(からい・つらい)

と読む事が多いから、川上先生漢数字でない形に作られたのね。



志 木・火・土・金・水って、五行だよな？

未 昔の人が考えた五つの元素なのね。

志 元素？

お 昔の人は、酸素とか炭素とか知らなかったけど、何か物質の元になるものがあるとは考えていたのね。



志 兄（え）と弟（と）は？

未 陰陽よ。兄が陽、弟が陰ね。

志 陰陽と五行で十。
これを十日に当てたんだ。

未 十干だけでなくて、まだあるのよ

志 え、分かった、十二支でしよう。

お これも暦や時間や
方角を表したのよ。

未 しかも十二の動物に
当ててあるわ。

志 未来ちゃんの（未）
は羊なんだね。

お 十干と十二支を合わせて
干支（かんし・えと）と
いうのよ。



十二支

（じゅうにし）



<p>戌</p> <p>いぬ ジュツ</p>	<p>申</p> <p>もうさる シン す</p>	<p>午</p> <p>うま ゴ</p>	<p>辰</p> <p>たつ シン</p>	<p>寅</p> <p>とら イン</p>	<p>子</p> <p>ね シ こ （ねずみ）</p>
<p>亥</p> <p>（いのしし） ガイ・い</p>	<p>酉</p> <p>第二基本文字 とり ユウ</p>	<p>未</p> <p>い ま だ ひつじ ミ</p>	<p>巳</p> <p>み シ （へび）</p>	<p>卯</p> <p>う （うさぎ） ボウ</p>	<p>丑</p> <p>うし チュウ</p>



志 子・午・未・酉の四つは

前に勉強した字だね。

未 巳は、己に似ているし、

戌は、戌に似ているわ！



お この十干と十二支を重ねて、日や

月や年に当てる暦を作っていたのよ。十二支の奇数番目が兄(え)で

陽、偶数番目が弟(と)で陰に当たりこれを順ぐりに組合わせると、六十年で元へ戻るのね。

〈兄〉 子 寅 辰 午 申 戌

〈弟〉 丑 卯 巳 未 酉 亥

志 甲子(きのえね)からはじまって、

乙丑(きのとうし)、丙寅(ひのえとら) 丁卯(ひのとう)、戌辰(つちのえたつ)

未 癸亥(みずのとい)で一周ね。



志 こういうのも知ってるよ。

〈壬申の乱〉(六七二年)

〈戊辰戦争〉(一八六八年)

〈辛亥革命〉(一九一一年)

お そうね、歴史上の

出来事を名付ける

とき、その年の

干支で言うこと

があるわね。

遺跡からの出土品に、

その年の干支が記録

されている事があるけど、

たとえば〈辛亥年〉が四七一年と割り出せたりするのよ。

今年の干支は？

辛亥革命は一九一一年、

その九一年後だから、

えーと、わかった！

三十一番目の



志 十二支は方角も表すよね。

子 北 卯 東 午 南 酉 西

未 丑と寅の間がうしとらで北東…

志 “うしとら”は「艮」とも書くよ。

未 「巽」や「乾」と

いうのもあるけど？

お 艮 巽 坤 乾

というのは、

十二支とは別に、

易にもとづく

八卦による方位の

表し方なのよ。

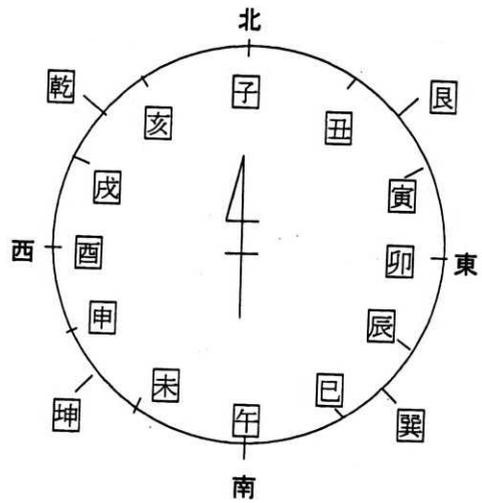
十二支 八卦

北東 丑寅 艮 (ゴン・うしとら)

東南 辰巳 巽 (ソン・たつみ)

南西 未申 坤 (コン・ひつじさる)

西北 戌亥 乾 (ケン・いぬい)



今月の宿題

次の文字は何の近似文字？

巳



戌



午



未



作・岡田
絵・吉田



方位表



お詫びと訂正

『うか』31号に掲載の「漢点字ってどんな字？ 30」
に以下の間違いがありました。お詫びして訂正いたします。

p 1 8 上の段 「将^ㇿ_ㇿ^ㇿ_ㇿ フ②」の仮名部分
(誤) フ② → (正) へ②

p 2 1 第一基本文字の表中に3文字脱落がありました。
「系^ㇿ_ㇿ」の下に、「比^ㇿ_ㇿ」と「数^ㇿ_ㇿ」
「宿^ㇿ_ㇿ」の下に、「学^ㇿ_ㇿ」を入れる。

p 2 1 下から4行目、「うかんむり」の例に不適切な字
がありましたので、以下の字に差し替えます。
(誤) 軍^ㇿ_ㇿ^ㇿ_ㇿ → (正) 宋^ㇿ_ㇿ^ㇿ_ㇿ
(軍は、わかんむり)

p 2 3 第2基本文字の表中の点字符号
(誤) 愛^ㇿ_ㇿ^ㇿ_ㇿ → (正) 愛^ㇿ_ㇿ^ㇿ_ㇿ

前回の21ページの差し替え版を用意いたしました。
保存される方は、別紙訂正版を31号にお張り下さい。

草擦ってゆく 水無月の 水の音



福永 耕二



飴して 山時鳥 ほしいまゝ



杉田 久女



十薬の 花まづ 梅雨に 入りにけり



久保田 万太郎



(「歳時記」より)



編集後記 ワールドカップのニュースが新聞・TV等をにぎわしています。

電車内で見かけた、サッカーの練習帰りらしき少年を思い出します。

空き缶が、電車の揺れにあわせてジグザグに、転がっていました。ちょうど少年の足元で缶が止まりました。

彼は、缶を手にとりて見つけていました。駅についた時、彼は缶をそのまま持って降りました。電車が走り出し、目でホームの少年を追うと、さりげなく空き缶の処理をしていました。

以前にも、バスの中でも同じような光景を目にした事を思い出しました。朝からの雨も昼前にはあがり、出かけた

時のこと、野球の試合の成果を話しながら大勢のユニフォーム姿の子供達が乗り込んできました。泥もだいぶ乾きかけ、

乗る順番を待っている間に、＼パンパン＼乾いた土をふざけながらお互いに落としあつていっているのが楽しそうでした。(試合に勝ったんだな・・・)

年少の子供が坐ろうとすると、キャプテンらしき年長の

子が「席が汚れるから立つてろ!」。何気ない一瞬の出来事でしたが、大変、印象に残りました。

しばらくは、サッカーを楽しみます。

次回の発行は八月十五日です。 宇田川 幸子

※本誌(活字版・テープ版・ディスク版)の無断転載はかたくお断りします。 表紙絵 岡 稲子

10. レイアウト

レイアウトは、本の性格を決めるものです。一冊一冊の本の個性を見ながら、決定します。

(1) 表題

①大見出しと小見出し

原則として、大きな見出しは中程に置き、小さくなるに従って前にずらします。行頭のスペースの数は、偶数を基本とします。

最小の小見出しは、行頭2マス明けて書き、「_」(小見出し符)で区切って、本文をつづけます。

②左寄せ・中寄せ・右寄せ

表題が幾つかあったり、日付や出典、執筆者名などがある場合、左寄せ・中寄せ・右寄せで表します。スペースの数の最小限は、左寄せで行末に10マス、中寄せは左右4マス、右寄せは行頭10マスとします。ただし、全体のバランスを見て判断して下さい。また、その行に収まらない場合は、適当なところで折り返して下さい。折り返しの始まりは、上の行より2マス下げたところとします。

【注】 左寄せ・中寄せ・右寄せは、EIBRKで変換して、編集画面で作業を行います。テキストファイルの段階では、位置の設定はできません。

③「凡例」「目次」「奥付」のように、2、3文字の表題では、「凡例」「目次」「奥付」のように文字間にスペースを入れて下さい。

④部、章、節、項

a) 「第○章」、「第□節」のような場合、「部、章、節、項」の後ろに二つのスペースを入れて下さい。

b) 「I、1、一」「A、a、i、ii、iii、iv、v」のように、見出しの頭につく数字やアルファベットの後に「.」などがない場合も、二つスペースを入れて下さい。

- c) 数字の後に「. 」がある場合は、原則として後ろに一つのスペースを入れて下さい。ただし、「II. 」のようにローマ数字や、高次の章の場合は、二つスペースを入れて下さい。
- d) (1)、①、(あ)、(A)なども、後ろに一つスペースを入れて下さい。
- e) 文章中に箇条書きの番号がある場合は、その両側に一つづスペースを入れて下さい。ただし、前に「、。」がある場合は、その間のスペースは省略して下さい。
- ① 見る、② 聞く、③ 話す。
- f) 章・節や項目の番号が、文章中に代名詞として機能している場合は、他の語と同様、スペースなしに入力して下さい。
- ①②③の順に (A) や (B) の場合

(2) 引用

①外国語の引用

- a) 外国語引用符として“ ”と‘ ’が用いられます。
日本語文中に外国語が含まれる場合、“ ‘ ’ ”で括って表します。
- b) 外国文を、日本語文とは区別して引用する場合は、外国文の行頭に半角の「¥e」を置き、最終行の行末にも半角の「¥e」を置いて区切ります。

②日本語文の引用：日本語文の中に、短い日本語文を引用する場合は、《 》で括ります。

③タブの設定：日本語文・外国語文何れも長い文章を引用する場合、本文とは区別するために、行頭にタブを設定することができます。引用文の行頭に半角の「¥2」を置き、最終行の行末（改行マークの直前）に半角の「¥¥」を置きます。この設定中は、全ての行の行頭2マスがタブの対象となります。この数値を変えれば、タブの数値が変わります。ただし、数値は偶数でなければなりません。タブを設定した場合、前後1行あけて下さい。
タブの設定は、テキストファイルの段階で行わなければなりません。変換後は編集が可能です。
編集画面では、最後の「¥」は「R」に変わります。

【注】外国文をタブの対象にする場合、必ず「¥2¥e ¥e¥¥」と、タブを優先しなければなりません。

